

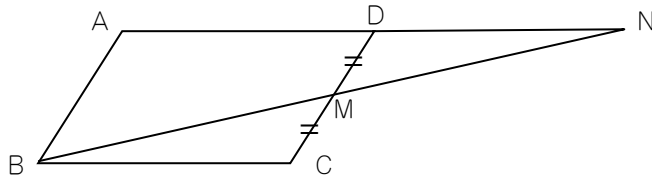
中学校2年生*単元確認テスト*3学期①			平行四辺形			
組番	名前		考え方 /2	技能 /4	知・理 /4	計 /10

1 四角形は次の①から⑤のどれかが成り立てば平行四辺形である。( )にあてはまる語句を下の語群から選んで書き入れなさい。(知・理1点×4)

- ① 2組の対辺がそれぞれ ( **平行である** )。……定義
- ② 2組の対辺がそれぞれ等しい。
- ③ 2組の ( **対角** ) がそれぞれ等しい。
- ④ ( **対角線** ) がそれぞれの midpoint で交わる。
- ⑤ 1組の対辺が平行でその ( **長さが等しい** )。

対辺      対角      平行である      垂直である      対角線  
長さが等しい      角度が等しい

2 平行四辺形 ABCD の辺 CD の中点を M とし、AD の延長と直線 BM との交点を N とする。AB = 4 cm、AD = 6 cm のとき、次の線分の長さを求めなさい。(技能1点×2)



(1) 線分 DM

**2** cm

(2) 線分 DN

**6** cm

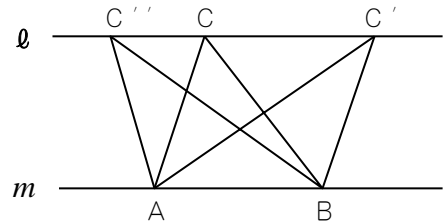
3 右の図で直線  $l$  と直線  $m$  は平行である。また、AC と BC' は平行である。△ABC の面積が  $a$  のとき、次の面積を求めなさい。(技能1点×2)

(1) △ABC'

**$a$**

(2) 平行四辺形 ABC'C

**$2a$**



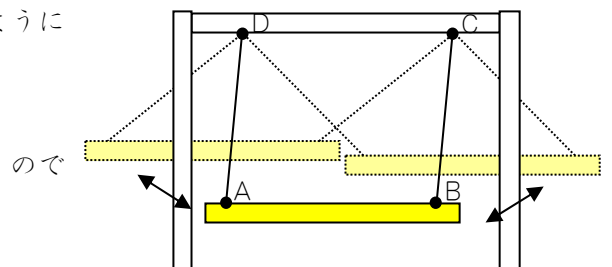
4 右の図は左右にゆれる遊具を正面から見た図である。この遊具は左右にゆれても座る部分 (AB) が DC と平行になるように作られている。これについて説明した次の文の   にあてはまる言葉や記号を書き入れなさい。(考え方1点×2)

この遊具は、 $AB = DC$ 、 $AD$  =  $BC$  となるように作ってあり、四角形 ABCD は

**2組の対辺がそれぞれ等しい**

平行四辺形となる。

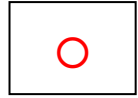
したがって、 $AB \parallel DC$  である。



中学校2年生*単元確認テスト*3学期②			確率			
組番	名前		考え方 /2	技能 /5	知・理 /3	計 /10

1 次の(1)~(3)について、正しいものには○を、正しくないものには×を付けなさい。(知・理1点×3)

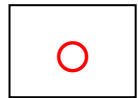
(1) コインを投げる場合では、表が出ることと裏が出ることは同じ程度に期待できるので、表が出る確率は $\frac{1}{2}$ である。



(2) サイコロを投げる場合では、1の目が出ることと1の目が出ないことは同じ程度に期待できるので、1の目が出る確率は $\frac{1}{2}$ である。



(3) サイコロを投げる場合では、偶数の目が出ることと、奇数の目が出ることは同じ程度に期待できるので、偶数の目が出る確率は $\frac{1}{2}$ である。



2 袋の中に、赤玉が3つ、青玉が5つ、白玉が2つ入っている。この袋から玉を1個取り出すとき、次の確率を求めなさい。(技能1点×2)

(1) 取り出した玉が、赤玉になる確率

$$\frac{3}{10}$$

(2) 取り出した玉が、青玉になる確率

$$\frac{1}{2}$$

3 1、2、3、4、5の数字を1つずつ記入した5枚のカードがある。このカードをよくきって1枚ずつ2回ひき、ひいた順にカードを並べて、2けたの整数をつくる。このとき、次の確率を求めなさい。(技能1点×3)

(1) できる整数の十の位が1になる確率

$$\frac{1}{5}$$

(2) できる整数が偶数になる確率

$$\frac{2}{5}$$

(3) できる整数が53以上になる確率

$$\frac{1}{10}$$

4 1枚の100円硬貨を2回投げるとき、そのうち1回が表で、もう1回が裏の出る確率について、A君は次のように考えた。これを正しく直しなさい。(考え方1点×2)

A君の考え

表、裏の出方は、表-表、表-裏、裏-裏の3通りであるから、そのうち1回が表で、もう1回が裏の出る確率は $\frac{1}{3}$ である。

表、裏の出方は、表-表、表-裏、裏-表、裏-裏の4通りであるから、そのうち1回が表で、もう1回が裏の出る確率は $\frac{1}{2}$ である。

1点

1点

中学校2年生*単元確認テスト*3学期③			データの比較			
組番	名前		考え方 /0	技能 /4	知・理 /6	計 /10

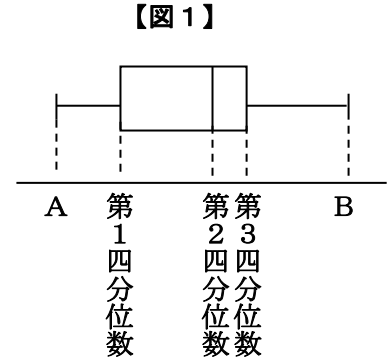
1 次の(1)~(4)の空欄に当てはまる語句を、あとの[ ]から選び、それぞれ書きなさい。(知・理1点×6)

(1) 複数のデータを比較するとき、【図1】のような図を用いることがある。この図のことを(箱ひげ図)という。

(2) データを小さい方から順に並べ、4等分したときの3つの区切りの値を(四分位数)という。

(3) 【図1】のAはデータの(最小値)、Bは(最大値)である。第2四分位数は、データの(中央値)である。

(4) 【図1】の箱の部分には、すべてのデータのうち、真ん中に集まる約(半数)のデータが含まれている。箱の横の長さは、第3四分位数から第1四分位数を引いた値で求められる。この値を四分位範囲という。



最小値      箱ひげ図      最大値      半数      四分位数      中央値

2 [ ]の九つの値を一まとまりのデータとして【図2】のように表した。空欄①~④に当てはまる数を解答欄に書きなさい。(技能1点×4)

23   24   25   26   26   29   30   34   39

【図2】

